

桶川市学校施設老朽化対策基本計画（改訂案）に関する意見等の募集結果

番号	項目等	意見等の概要	市の考え方
	(ページ)		
1	全般	<p>子どもたちが安心・安全かつ快適に学習できる教育環境を確保する観点から老朽化対策を検討するのであれば、校舎や体育館だけでなく、フェンスや門扉、自転車置場、グラウンドの状態、周辺環境、校内の樹木や生け垣なども重要な教育環境の一部であると考えます。</p> <p>老朽化対策における優先順位は高くない場合であっても、現状把握のための調査や今後の整備に向けた検討は必要であると考えます。</p>	<p>校庭や外構の整備については、15 ページから記載している「第 5 章 学校施設整備の実施計画」の「1 実施計画の基本的な考え方」のなかで、日常の点検や定期点検などで機能低下が見受けられた場合に事後保全で改修することとしておりますので、引き続き、状況を注視しながら、整備を進めてまいります。</p>
2	全般	<p>少子化等を踏まえた学校統合の検討や計画を進めるに当たっては、その根拠となる児童・生徒数の将来推計などのエビデンスを明確に示すとともに、統合によるメリット・デメリットを十分に検証することが必要である。</p> <p>また、地域コミュニティやまちづくりへの影響についても十分に検証した上で、その結果を老朽化対策の方針に反映していただきたい。</p>	<p>学校統合や地域コミュニティとの関わり方については、13 ページの「第 4 章 老朽化対策の基本的な考え方」の「2 学校施設規模・配置計画等の方針」のなかで記載させていただいておりますが、いただいたご意見についても、参考にさせていただきながら今後の検討を進めてまいります。</p>
3	全般	<p>老朽化対策を検討する際には、多様化する教育ニーズに適切に対応するとともに、地域や学校の特色を生かした教育や、グローバル教育・言語教育の充実などを視野に入れ、魅力ある学校教育の実現につながる教育環境の整備についても併せて検討する必要があると考えます。</p>	<p>教育環境の整備については、安心・安全・快適に学習できる教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びを実現するために、学校施設が目指すべき姿として、3 ページの「第 2 章 学校施設を目指すべき姿」に示しております。</p> <p>今後、具体的な整備内容を検討していく際には、いただいたご意見につきましても参考にさせていただきながら計画を進めてまいります。</p>